



令和8年度(2026年度)「くまもと学校防災月間 ~防災教育編~」

I 主な取組内容例

1. 学校での取組例

- (1) 「学校防災教育指導の手引」や熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」等を活用した防災教育の授業を実施するとともに保護者や地域住民に授業を公開する機会を持つ。
- (2) 朝の会、SHR 等を活用した防災教育を実施する。
→展開例:「落雷編」「地震編」参照
- (3) 防災をテーマにした児童・生徒会活動の取組を実施する。
- (4) くまもとマイタイムラインを活用した防災教育を実施する。
- (5) 洪水時及び土砂災害に関する避難確保計画を作成した学校は、計画に基づく避難訓練を実施する。
- (6) 緊急地震速報音源を活用した避難訓練を実施する。
- (7) 平常時の心の健康づくり。
※事故等発生時及びその後の心の変化について理解し、対処法等の指導。
- (8) ボランティア活動の本質や参加する際の注意事項について学ぶ。
- (9) 発災直後の対応だけでなく、復旧・復興の状況や課題を知る機会を持つ。
- (10) 落雷事故防止のためのチェックリストを活用し、雷ナウキャストの使用法を習得する。

※探究型避難訓練取組例

- (1) 歓迎遠足等を活用し、地域にちなんだリスクを知る。【STEP1】
- (2) 自クラスのリスクを全体で共有する。【STEP1】

第2節 事故等発生時に
おける心のケアの実践
(p102~103)



(参考) くまもとマイタイムライン



くまもとマイタイムライン(地震・津波版)



文部科学省:「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育



2. 家庭・地域と連携した取組例

- (1) 家族で防災について話し合う取組を推進する。
- (2) 防災士や地域人材、ゲストティーチャーを活用した防災講話を実施する。
- (3) 災害ボランティア活動等を推進する。
- (4) 地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流を深める。



創造的復興への挑戦2026 探究型避難訓練とともに ~思い描いた その先へ~

【Concept1】

みんなと協力して、あきらめずにやり抜く力が育つ訓練。

【Concept2】

学びに向かう力・人間性等の涵養等。



©2010 熊本県くまモン

令和8年度（2026年度）くまもと学校防災重点目標

- ① 教室内待機の避難訓練
- ② 余震を想定した避難訓練（熊本県：R5実施率12.1%）

①教室内待機訓練

～【STEP1】初級編～



校庭集合

- 校舎に耐震性があり、津波を伴わない。
- 悪天候である/猛暑である。
- 傷病者が出ている。

- 津波や火災が迫っている
- 校舎内給食室等から火事が発生
- 校舎に耐震性がない

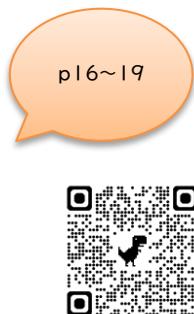
②余震を想定した避難訓練 ～【STEP1】初級編～

■余震が発生する訓練を行い、教室内で点呼して終了。

- ・緊急地震速報の報知音で机の下に入る指導をしておく（教師が行動指示しない）。
- ・余震を示す地震速報の報知音を数回（ランダムに）鳴らす。
例) 余震3回：本震 → 4分後余震 → 3分後余震 → 3分後余震
- ・児童・生徒等は、報知音のたびに机の下に入る。
- ・校庭に集合せず、教室内で点呼をして終了。

【Point】

- ・抜き打ちである必要はない。
教職員にも生徒にも、余震のある訓練を行う旨を事前に伝えて構わない。
- ・教職員は、「全部で3回」など事前に示しあわせておいてよい。
- ・児童・生徒には、余震が何回起きるかは言わない（本震時刻は伝えてよい）。
- ※本来、余震がどのくらいの頻度で何回起きるかは予測不可能であるため



©2010 熊本県くまモン

(参考)文部科学省:実践的な防災教育の手引き